

- 問1 日本の人口ピラミッドは、1950年の「富士山型」、1980年の「釣り鐘型」、2010年の「つぼ型」へとその形状を変化させてきました。このような変化が起こった主な背景と、その結果として生じている社会的な課題について述べたものとして正しいものを選びなさい。 (2017年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 景気拡大による労働力需要の増加で出生率が上昇したため、20歳未満の人口割合が増加し、待機児童問題が解消された。 | 2. 都市部への人口集中により地方の出生率が急増したため、20歳未満の人口割合が増加し、学校施設の不足が問題となっている。 | 3. 医療技術の向上で平均寿命が延びる一方で、出生率が低下したため、20歳未満の人口割合が減少し、労働力の不足が懸念されている。 | 4. 食糧事情の悪化により死亡率が上昇したため、20歳未満の人口割合が減少し、年金制度の担い手が急増している。 |
|--|---|--|---|
- 問2 排他的経済水域（EEZ）の仕組みと、沿岸国が持つ権利の内容について正しく説明しているものを選びなさい。 (2026年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 自国の領土と同様に完全な主権が及ぶため、他国の船舶がこの水域を通過することを禁止できる。 | 2. 水産資源の漁獲や海底の天然ガスの採掘など、経済的な活動を独占的に行う権利を持つ。 | 3. 沿岸から12海里の範囲を超えて設定されるため、この水域内の資源はすべての国が自由に共有する。 | 4. 水域内にある全ての島々の領有権を自動的に獲得し、他国との境界交渉を不要とする制度である。 |
|---|---|---|---|
- 問3 前橋市の利根川沿いからJR上越線付近にかけての地形図を読み取ると、「㐺」や「鳥居」の地図記号が特定の範囲に集まっていることがあります。このような宗教施設の分布や地図記号の特性について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 地形図上の宗教施設の記号は、その付近に田畑が広がっている場合にのみ記載され、市街地では省略される決まりがある。 | 2. 「鳥居」の記号は、JR上越線のような主要な鉄道線路の境界線を示すために設置されており、交通網の目印として機能している。 | 3. 「㐺」の記号は標高を正確に測定する基準となる三角点とセットで配置されることが多く、地形の起伏を示す役割も持っている。 | 4. 「㐺」や「鳥居」の記号は、古くからの集落や城下町の面影を残す市街地によく見られ、土地の歴史的背景を反映している。 |
|--|--|---|---|
- 問4 縮尺2万5千分の1の地形図において、図上の地点Aから地点Bまでの長さが3cmであるとき、実際の水平距離は何mになるか求めなさい。 (2018年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|---------|---------|---------|
| 1. 1,000m | 2. 250m | 3. 500m | 4. 750m |
|-----------|---------|---------|---------|
- 問5 日本の領土において最北端に位置し、北海道の北東に分布する北方領土の中で最も面積が広い島はどれか。 (2018年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|--------|--------|
| 1. 歯舞群島 | 2. 色丹島 | 3. 択捉島 | 4. 国後島 |
|---------|--------|--------|--------|
- 問6 日本の国土面積は世界で60程度ですが、その周辺には広大な「排他的経済水域」が設定されており、海洋資源の宝庫となっています。この水域の範囲と沿岸国が持つ権利について述べた文として、正しいものを選びなさい。 (2016年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 沿岸から200海里以内の水域を指し、魚介類や海底の鉱物資源を優先的に管理・開発できる権利を持つ。 | 2. 沿岸から12海里以内の水域を指し、沿岸国の主権が及ぶため、外国の船は自由に通行できない。 | 3. 沿岸から200海里以内の水域を指すが、資源の管理についてはすべての国が平等な権利を持つ。 | 4. 沿岸から500海里までの非常に広い水域を指し、他国の船の航行を完全に禁止することができる。 |
|---|---|---|--|
- 問7 世界の国々の「陸地面積」と「沿岸から200海里以内に設定される水域の面積」を比較した統計において、日本のように陸地面積に対して非常に広大な水域を持つ国々には共通の地理的特徴が見られます。その特徴を説明したものとして最も適切なものを選びなさい。 (2016年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------|--------------------------|-----------------------------|---------------------------|
| 1. 大陸の一部が海に突き出した形状をしている半島国である。 | 2. 周囲をすべて海洋に囲まれている島国である。 | 3. 国境の多くを他国と陸上で接している内陸国である。 | 4. 国土の大部分が熱帯雨林や砂漠に覆われている。 |
|--------------------------------|--------------------------|-----------------------------|---------------------------|
- 問8 日本の領域について、日本の東端に位置する島と、沿岸から二百海里までの範囲で沿岸国が水産資源や鉱物資源などの管理権を持つ水域の名称の組み合わせとして正しいものを、次のうちから選びなさい。 (2021年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|-----------------|-----------|----------------|
| 1. 与那国島と領海 | 2. 沖ノ鳥島と排他的経済水域 | 3. 南鳥島と領海 | 4. 南鳥島と排他的経済水域 |
|------------|-----------------|-----------|----------------|
- 問9 北緯40度の緯線が通るスペイン中部地域と、日本の札幌市の位置関係や気候の背景について述べた文として、正しいものはどれか。 (2026年 兵庫県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 札幌市はスペイン中部よりもはるかに高緯度に位置するため、夏には白夜に近い現象が起こる。 | 2. 札幌市とスペイン中部は緯度が共通しているため、冬の降雪量や平均気温に大きな差は見られない。 | 3. 札幌市は北緯約43度でスペイン中部とほぼ同緯度であるが、日本列島はヨーロッパ全体よりも北方に位置している。 | 4. 札幌市はスペイン中部とほぼ同緯度に位置するが、冬の寒さは札幌市の方が厳しく、冷帯（亜寒帯）の気候特性が見られる。 |
|--|--|--|---|
- 問10 日本の人口構成の変化について述べた文として正しいものはどれですか。1950年、1980年、現在の3つの時期における人口ピラミッドの形状の変化に着目して説明しなさい。 (2023年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 1980年頃は死亡率と出生率ともに高い富士山型であったが、現在は若年層が急増したことで釣鐘型に変化している。 | 2. 1950年から現在に至るまで、一貫して出生率が高く、ピラミッドの底辺が広がり続ける富士山型を維持している。 | 3. 1950年頃は子供が多く底辺が広い富士山型であったが、現在は少子高齢化が進み底辺が狭まったつぼ型となっている。 | 4. 1950年頃は高齢者が多いつぼ型であったが、1980年頃には子供が増えて底辺が広い富士山型へと変化した。 |
|---|--|--|---|
- 問11 日本の位置関係を緯線と経線に基づいて考えた場合、兵庫県明石市を通る標準時子午線（東経135度）と比較した北海道付近の状況として正しい説明はどれですか。 (2018年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 北海道の北端付近には北緯45度の緯線が通り、経線については標準時子午線よりも西側に位置する東経130度が北海道付近を通る。 | 2. 北海道の北端付近には北緯50度の緯線が通り、経線については日本の最東端に近い東経155度が北海道付近を通る。 | 3. 北海道の北端付近には北緯45度の緯線が通り、経線については標準時子午線よりも東側に位置する東経140度が北海道東部付近を通る。 | 4. 北海道の北端付近には北緯40度の緯線が通り、経線については標準時子午線と同じ東経135度が北海道付近を南北に貫く。 |
|--|---|--|--|
- 問12 身近な地域の調査において、空中写真と地形図を比較して撮影地点や方位を特定する手順として、最も適切なものはどれか。 (2022年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 写真に写っている特徴的な建造物を地形図上で特定し、その対象物と周囲の地形との位置関係から、どの方位を向いて撮影されたかを確認する。 | 2. 地形図にある方位記号は無視し、写真の中で最も高い建物が写真の上部（奥側）に来るように配置して方位を決定する。 | 3. 地形図の等高線の密度から撮影時のカメラの高度を算出し、建物の影の長さから撮影された季節と時刻のみを特定する。 | 4. 空中写真に写っている道路の幅を地形図の縮尺に当てはめ、道路が最も太く写っている方向を常に北と断定する。 |
|--|---|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 医療技術の向上で平均寿命が延びる一方で、出生率が低下したため、20歳未満の人口割合が減少し、労働力の不足が懸念されている。	日本の人口構造の変化は、医療の進歩による長寿化（高齢化）と、生活スタイルの変化に伴う出生率の低下（少子化）が同時に進行したことによります。統計上、20歳未満の人口割合が減少を続けていることは、将来的な生産年齢人口（15～64歳）の減少に直結するため、労働力不足や社会保障制度の維持が深刻な課題となっています。
問2	答え 2 水産資源の漁獲や海底の天然ガスの採掘など、経済的な活動を独占的に行う権利を持つ。	排他的経済水域は、その名称の通り「経済的」な権利を「排他的（独占的）」に持つことができる水域です。具体的には魚などの水産資源や、海底にある石油・天然ガス、レアメタルといった鉱物資源の探査・開発・保全について主権的な権利が認められています。一方で、領海とは異なり、他国の船舶の航行や航空機の上空飛行などは原則として自由です。
問3	答え 4 「㐺」や「鳥居」の記号は、古くからの集落や城下町の面影を残す市街地によく見られ、土地の歴史的背景を反映している。	地図記号は単なる場所の特定だけでなく、その土地の成り立ちを示しています。寺院（㐺）や神社（鳥居）が密集している地域は、古くから人々が定住し、信仰の拠点となっていた歴史的な背景があることが読み取れます。三角点はピラミッドのような「△」の中に点で表される別の記号であり、鉄道の境界や田畑の有無によって宗教施設の記載が左右されることはありません。
問4	答え 4 750m	縮尺2万5千分の1の地形図は、実際の距離を2万5千分の1に縮小して描かれています。そのため、図上の1cmは実際には25,000cm、つまり250mに相当する。図上の長さが3cmである場合、250mを3倍することで、実際の水平距離は750mとなる。
問5	答え 3 択捉島	北方領土は北海道の東側に連なる島々であり、その中で最も北に位置するのが択捉島である。択捉島は北方領土の中で最大の面積を持ち、日本の領土全体の最北端としても位置づけられている。国後島は択捉島の南西に位置し、色丹島や歯舞群島はさらに南側の根室半島近くに位置している。
問6	答え 1 沿岸から200海里以内の水域を指し、魚介類や海底の鉱物資源を優先的に管理・開発できる権利を持つ。	国連海洋法条約によって定められた排他的経済水域（EEZ）は、沿岸から200海里（約370km）までの範囲を指します。この水域内では、他国の船舶の航行は認められているものの、水産資源（漁業）や鉱物資源（天然ガスやレアメタルなど）の調査・開発については、沿岸国が独占的、あるいは優先的な権利を持つことができます。日本の領海が沿岸から12海里であることと比較して、その範囲と権利の違いを理解しておく必要があります。
問7	答え 2 周囲をすべて海洋に囲まれている島国である。	排他的経済水域（EEZ）は、沿岸から200海里（約370km）までの範囲に設定されます。日本のように四方を海洋に囲まれた島国は、大陸にある国や内陸国に比べて、国土面積に対して確保できる水域の割合が極めて大きくなるという特徴があります。
問8	答え 4 南鳥島と排他的経済水域	日本の四端のうち、東端に位置するのは東京都の南鳥島です。また、国連海洋法条約に基づいて沿岸から二百海里（約370km）までの範囲に設定され、水産資源や鉱物資源の権利が認められる水域を排他的経済水域（EEZ）と呼びます。領海は沿岸から十二海里までの範囲を指すため、区別に注意が必要です。
問9	答え 4 札幌市はスペイン中部とほぼ同緯度に位置するが、冬の寒さは札幌市の方が厳しく、冷帯（亜寒帯）の気候特性が見られる。	札幌市とスペイン中部はほぼ同緯度にあります。気候には大きな違いがあります。ヨーロッパの西側は暖流の北大西洋海流や偏西風の影響で緯度のわりに温暖である一方、札幌市は大陸からの冷たい季節風や千島海流（親潮）の影響を受けやすく、冬の寒さが厳しい冷帯（亜寒帯）に属します。このように、緯度が同じでも海流や地形、風の影響によって気候が異なる点は重要です。
問10	答え 3 1950年頃は子供が多く底辺が広い富士山型であったが、現在は少子高齢化が進み底辺が狭まったつぼ型となっている。	日本の人口構成は、戦後間もない1950年頃は多産多死を反映して子供の割合が非常に高い「富士山型」でした。その後、1980年頃には出生率と死亡率がともに低下したことで全体が長方形に近い「釣鐘型」へと移行し、現在は出生率のさらなる低下（少子化）と寿命の伸び（高齢化）によって、ピラミッドの底辺が狭まり中央から上が膨らんだ「つぼ型」へと変化しています。
問11	答え 3 1 北海道の北端付近には北緯45度の緯線が通り、経線については標準時子午線よりも東側に位置する東経140度が北海道東部付近を通る。	日本の位置を把握する際、標準時子午線である東経135度を基準にすると、北海道はそれよりも東に位置していることがわかります。具体的には、北海道の東部付近を東経140度の経線が通っています。また、緯度については、東北地方を通る北緯40度よりもさらに北に位置しており、北端付近を通る緯線は北緯45度となります。これらの数値は、日本の広がりを理解するための重要な指標です。
問12	答え 1 2 写真に写っている特徴的な建造物を地形図上で特定し、その対象物と周囲の地形との位置関係から、どの方位を向いて撮影されたかを確認する。	地域の調査では、空中写真という視覚情報と、地形図という記号化された情報を結びつける技能が求められます。まず、両者に共通する目印（ランドマーク）を見つけ、その建造物が正面に見えるとき、背後に何が見えるか、あるいは周辺の地形とどのような位置関係にあるかを分析することで、正確な撮影地点と方位を導き出すことができます。